

ガジュマルの木

私が、学生の頃、もう40年前になろうか、下宿先で友人2人と「台湾に自転車で行こう」と思い立った。異国の若者がどのように生き、日本をどのような目でみているか、肌で感じとってこようと。

次の年の夏、43日間の自転車旅行に出た。学校、民家に泊まり歩く貧乏旅行であった。船で鹿児島から沖縄を経て、台湾の基隆に上陸し、東海岸の台東から、高雄、台南、台中そして台北へと一周した。

途中東側にある花蓮という町で道を尋ねた。その時、道を教えてくれた人が、「呉さん」という少し年輩の男性との出会いだった。その「呉さん」は、見ず知らずの我々を「日本から若者が来た。」と、わざわざ市役所に連れて行き、「黄さん」という当時の市長に会わせてくださった。その際、市長から色紙「自強不息（やすまず自分を強くしろ）」を頂いたのを覚えている。「呉さん」とは、戦争時の台湾の人の日本への思い、日本人の台湾への思いを語りあった。それが「呉さん」との3日間の出会いであった。別れ際に、もう一度この人に会いに来ようと強く誓いながら、未だ果たせぬままとなっている。強烈な太陽の光を感じる時、今も私の青春を呼び戻させる思い出の人である。

その旅の途中、沖縄に少し滞在した。沖縄は、当時日本に返還されておらず、アメリカ領土であり、まだ終わらない戦後にふれたという記憶がある。戦跡地区である南部を自転車で走りながら、とある小学校の運動場に泊まることになった。地元のハブの話聞いたせいか、怖い気持ちもあったが、偶然夏休みで校長先生が宿直をしておられ、保健室に泊まれるよう計らっていただいた。冷たい飲み物を差し入れてくださり、我々は大変感激したことを覚えている。この学校が、糸満小学校だった。巨大なガジュマルの木があり、校長先生との一晩の出会いであった。このように、私にとって心の中に残る人との出会いは、「旅の出会い」である。

社会人となつての出会いは何だろうか？日々の生活の中には楽しい出会い、嬉しい出会いもあれば、時には葛藤の中での出会い、逃げ出したい、できるな

ら避けたいと思う出会いもある。また、受け身で出会うか、前向きに出会うか、それぞれが、自分の中にある自分自身にどう向き合うかにより、出会いも変わるのではないかと思っている。そう思うのもこの数年間、経営の混乱の中で、いろいろな人に向き合ってきたせいかもしれない。

人は皆、生きていく中で偶然に人との出会いがあるが、必ず人生を左右する出会いがある。そして、自分を成長させるのが、人との出会いの意味することではないだろうか。アメリカ合衆国第28代大統領ウィルソンが言っている「運命の中に偶然はない。人間はある運命に出会う前に自分がそれを作っているのだ。」という言葉を見つけた。私は、次に「人との出会いは天が与えてくれたのだ。」という言葉を加えたい。この言葉は、運命を克服し、運命に挫けないで、自己を活かしてゆくということを「人との出会い」のなかで学べと示唆していると自分なりに理解している。人との出会いの大切さをあらためて思う今日この頃である。

さて、先述の「旅の出会い」の話の続きに戻るが、今から10年程前、私の長男が私と同じ学生の頃、私が学生時代の貧乏旅行の話をよくしたせいか、「おやじ、糸満小学校に行ってきたよ。ガジュマルの木も見えてきた。」と、ガジュマルの木の下で撮った写真を見せてくれたことがあった。あのときは、息子の写真に自分を重ね合わせて月日の流れを感じながら、素直に嬉しかった。

私も一昨年、沖縄の得意先訪問の折、糸満市の近くを通ったので、「時間があれば、帰りに糸満小学校に立ち寄りたい。」と頼んだ。担当者は、怪訝そうな顔をしていたが、行ってみると、ありました、ありました、糸満小学校とどっしりとした巨大なガジュマルの木が。学校は、立派な鉄筋コンクリートとなっていたが、ガジュマルは困いがしてあるものの、当時の面影そのままに残っていた。確か天然記念物扱いになっていたと記憶している。私は40年ぶりの出会いに・・・、あの時の校長先生が今にもでてきそうで・・・、暫くその場にたたずんでいた。

(雪印乳業株式会社代表取締役社長 高野瀬忠明・こうのせただあき)